

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1273900082		
法人名	有限会社 ハロービジネス		
事業所名	グループホーム ふじき野		
所在地	〒285-0928 千葉県印旛郡酒々井町ふじき野3-20-3 (電話) 043-481-8686		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年3月20日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 (平成21年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤8人, 非常勤4人,	常勤換算7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 25,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300円	昼食 500円
	夕食	700円	おやつ 200円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森クリニック・中沢病院・すばる歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは酒々井町唯一のグループホームであり、6年前にふじき野の住宅団地開発当初に土地を求め開設した。代表は当初利用者3~4名でごく小規模で家庭的に支えられるホームを目指していたが、介護保険制度上の枠の中で1ユニットのグループホームの開設に至った経緯がある。「共に楽しく歩む」という設立の理念の下で、自然に恵まれ、かつ周囲の住宅環境も年々整備される中、行き届いたケアを受けて、馴染みの職員や地域住民と共に毎日を元気に過ごしている。建物は一般家庭の雰囲気を大切にしたり造りであり、車椅子にも対応出来るようエレベーターが設置されている。共用スペース・各居室とも窓外には公園や自然が開け開放的な雰囲気である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価はこれまで3回受けており、評価結果は月次開催のヘルパー会議で職員間で検討し、指摘事項は毎回改善を図ってきた。前は書式に関する2点の指摘事項があったが、いずれも改善されている。また、外部評価報告書は家族にもコピーを配布し報告している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価に当たってはヘルパー会議で職員全員に趣旨を説明し、代表と計画作成担当者が相談して自己評価票を作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは毎年少しずつ交代しているが、本年度は入居者代表を加え、近隣自治会代表、地域住民代表と当ホームの職員で構成し年4回実施した。出された意見をホーム運営に反映している。役場の職員の参加を得るのは難しい為、福祉に理解のある議員に参加を要請し、福祉現場の実情につき理解を深めていただきたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は平均すると1週間に1度、他府県に住む家族も2~3ヶ月に1度は来訪があり、意見や要望は都度話し合い記録して運営に反映している。来訪者帳には毎日のように家族の記帳があり、その隣りにご意見箱も用意されている。介護計画は利用者、家族の要望や意見を取り入れて作成し、ヘルパー会議で利用者ごとに介護の仕方を話し合い統一して取組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当ホームは新しい住宅団地にあり、自治会が出来ると同時に加入し、代表はその役員を務めるなどして地域住民と共に街づくりをしてきた。近隣住民から毎日のように花や野菜の差し入れがあり、ホーム内は季節の花でいっぱいである。地域の夏祭り等諸行事には指定席が用意されており、毎回参加を歓迎され、地域のグループホームとして受け入れられている。各種ボランティアも頻繁に来訪があり、馴染みとなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に楽しく歩む」という、明快な理念を持って当ホームを運営している。この理念は利用者を中心に職員、家族、地域関係者等が「共に支えあい、利用者の歩みを大切にしたい暮らしを実現したい」との代表の想いをわかり易く表現したものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や食堂・リビング等の目に付きやすいところに大書で掲げられており、訪問に来た誰もが直ぐに覚えらる。職員は開設以来の勤務者が多く、理念を共有して日々のサービス提供の中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは新しい住宅団地の一角にあり、自治会が出来ると同時に加入し、代表はその役員を務めるなどして地域住民と共に街づくりをしてきた経緯がある。毎日のように花や野菜の差し入れがあり、ホーム内は季節の花でいっぱいである。地域の夏祭り等諸行事には指定席が用意されており毎回参加し、地域のグループホームとして受け入れられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は開設以来3回受けており、評価結果は月次開催のヘルパー会議で職員間で検討し、指摘事項については毎回改善を図ってきた。また、外部評価報告書は家族にもコピーを配布し報告している。今回の外部評価に当たっては、代表と計画作成担当者が相談して自己評価票を作成した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>本年度の運営推進会議のメンバーは入居者、近隣自治会代表、地域住民代表と当ホームの職員で構成し、年4回実施して出された意見をホーム運営に反映している。役場の職員の参加を得るのは難しい為、福祉に理解のある議員に参加を要請している。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>酒々井町唯一のグループホームで、開設以来役場には日常的に足を運んでおり、些細なことをも相談し合える関係にある。各種相談に応じていただいたり、逆に代表は福祉課職員や町会議員の研修に講師として招かれることもよくあり、頼りにされている存在である。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個人別に本人の健康管理状況や生活ぶりを記載した「介護状況報告書」を家族に郵送している。少額の金銭管理を依頼されている利用者家族には個人別の「ホーム通帳」で管理し、毎月コピーを同封している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族は平均すると1週間に1度、他府県に住む家族も2～3ヶ月に1度は来訪がある為、都度話し合い要望を取り入れている。来訪者帳には毎日のように記帳があり、その側にご意見箱も用意されているが、投稿は「アンパンが食べたい」との利用者の願いが過去1度あり、すぐに対応したとのことである。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は9名中5名が5年以上、最低でも3年以上の勤めており職員の離職はほとんどなく、特に問題は無い。代表は職員に対しても「共に楽しく歩む」の精神で接しており、職員からも働き易い職場で長く勤めたいとの声が聞かれた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加は、代表が研修案内を見て必要性を判断し、職員を選んで順番に受講させている。費用は会社負担で、報告書を提出させてヘルパー会議等で他の職員に説明し共有している。毎年全職員が自分自身の「介護に対する年度目標」を作成して目標意識を持つようにすると共に、介護支援専門員や介護福祉士を中心に必要な知識を教え合うようにしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣市町村のグループホーム3事業所で交換ヘルパー研修を行っており、年間3人ほど事業所同士で職員を派遣し合い、それぞれの現場で受け入れて体験する機会を設けている。他事業所の介護の仕方や書類の作成方法など気付きを得ることが多く、毎回体験レポートを提出させサービスの改善に役立てている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望する利用者がにホームに馴染んでもらうために、日中の利用から、宿泊まで徐々に体験してもらっている。入居申込書にはそれまでの生活歴や職業、家族の要望などを詳細に記入してもらい、職員はヘルパー会議を通して共有し、利用者がスムーズに生活に慣れるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のこれまで職業歴や生活歴などから、その人全てをありのままを受け入れることを職員皆で取り組んでいる。一緒に縫い物や、食事づくりなどの行動をともにしながらお互いの信頼を深める関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は外出や買い物、食事の準備などの日常の生活や会話などから捉えることが多い。難聴の利用者からは筆談やボードを利用して聞いている。徘徊などの行動には職員がゆったりと寄り添い、根底にある思いを引き出して根気強く支援することで、2～3ヶ月で落ち着くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のヘルパー会議で入居者一人ひとりの課題について話し合い、家族からの意見も取り入れ、病状や生活状況の記録などをもとに個人別援助計画書(介護計画)を作成している。作成した介護計画は利用者家族の同意を得ている。	○	利用者家族等アンケートでは3分の1強の方から、介護計画について「説明は受けたが話し合っていない」との回答であるので、利用者家族との話し合いや説明方法に一考願いたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3～6ヶ月と利用者の状態により異なるが、定期的に行っている。モニタリングや利用者の個人別日課計画表に記録したものをみて、病状や状態の変化があった場合は即対応し見直している。作成した介護計画は家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の要望に応じて友人宅の訪問に職員が付き添い、地域の老人会の旅行にも出かけている。家庭と同じように利用者が過ごしてほしいという代表の想いから、職員の子どもが学校帰りにホームで利用者と一緒に遊んだりしている。又、代表が地域や役場の依頼で介護に関する講演会講師に招かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には職員が同行して支援している。又、ホームには協力病院、クリニック及び歯科医がそれぞれ定期的に1ヶ月に1回、訪問診療があり、利用者家族に喜ばれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期の対応については契約時に利用者家族からも意向を伺い話し合っている。しかしその場にならないと判断しかねることもあるので、家族には面会の都度確認をとるようにしている。緊急時の対応には協力病院や近隣に住む看護師とも連絡しあい即、対応できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、日常の生活では利用者の気持ちに配慮した介護をするようにしている。個人情報の記録などは鍵のかかる事務所に保管している。又、個人情報保護方針については、運営規定、契約書に秘密保持の条文として記載されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは特別に一日の計画は決まっていないが食事時には利用者が揃って食事をしている。入浴時間は利用者に合わせるようにし、好きな時間に入っている。又、近隣のスーパーやショッピングモールにホームの車で出かけたり、散歩や庭の花の手入れなどで自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者から届く食材をもとに、職員と一緒にお米とぎから、料理、盛り付けまでしている。月に一回は花見弁当のように特別の弁当をお願いし、誕生日会などに利用している。外食は正月ぐらいだが、家族と外食する利用者も多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後1時30分から午後5時までの間に自由に入ることができる。毎日入浴する利用者もおり、気の合った同士で入浴することもできる。色々な入浴剤を入れて温泉気分を楽しんだりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、食事準備や片付け、掃除など出来る方が多く、自然にそれが自分の役割になっている。又、居酒屋を経営していた利用者は料理をすることで生き生きしてしている。地域のボランティアも頻繁に訪れ一緒に、歌ったり、ゲームをしたりして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣地域は閑静な住宅地と公園や自然に恵まれ、利用者は朝、夕と気軽に散歩している。たまに利用者同士で散歩することもあり、近隣住民から温かい見守りや声かけがある。又、家族も頻繁に来訪し一緒に外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは日中、玄関、居室とも鍵はかけていない。玄関は夜間に施錠する。職員や利用者の常時居る居間からは玄関が見えにくい為、玄関には鈴をつけて出入りがわかるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎年消防署立会い1回、自主訓練1回、合わせて2回実施している。消火器は所定の場所に配置され、ヘルメット等の防災用具も人数分備え、非常時にすぐに使用できるようにエレベーター前の壁に掛けてある。非常階段も設置されているが、居室に火災警報器やスプリンクラーは備えられていない。	○	2階入居している利用者は7名あり、緊急避難に不安が感じられる。現在、スプリンクラー設置のため業者を選定中だが、早めに解決をお願いしたい。
J					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材業者が栄養バランスに配慮したものが届けられている。食事や水分の摂取量は利用者別の介護記録に服薬や排泄の管理と一緒に記載しており、食事の形態も利用者の状態に配慮したものにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺には季節の草花や、観葉植物、絵画などが飾られ温かい雰囲気である。1階の食堂のそばに明るい和室があり寛ぎのスペースになっている。炬燵もあり、食後の一休みなどに利用されている。ホームエレベーターがあり、車椅子での行き来も出来る。また、2階には洗濯物や布団を利用者自身で干せるように、共用の広いベランダが設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者名がひらがなで表した、木製の表札がかけてある。室内は備え付けのクローゼットがあり、使い慣れたベッド、椅子や家具が持ち込まれており、本人が気に入るように工夫している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。